

令和2年度
学校関係者評価報告書
(第1回)

令和2年5月27日(水)

学校法人 九州総合学院
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

令和2年度 第1回「学校関係者評価委員会」報告について

鹿児島情報ビジネス公務員専門学校では、平成26年度より、教育内容や日々の学校運営に関する業務について、更なる改善、向上を図るため、自己点検・評価に取り組み、本校のホームページ上で公表いたしております。

令和2年度につきましても、第1回「学校関係者評価委員会」を開催し、本校に関連する企業・医療機関・卒業生および保護者の方々に、本校の教育活動や学校運営に関して貴重なご意見・提言等をいただきました。今後の学校運営や評価の在り方について、更なる改善を図るため努力いたして参ります。

今回の評価結果を真摯に受け止め、今後とも、業界・地域・学生のニーズに応えられる学校運営を目指し、教職員一同、鋭意努力いたす所存でございます。

評価委員の皆様には、あらためて感謝申し上げますとともに、引き続き、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

令和2年6月

学校法人 九州総合学院

鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

校長 栗山 重隆

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した「令和元年度自己点検・評価報告書」について、本校に関連する企業等10名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）および教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員一覧表

(順不同・敬称略)

評価委員	会社（企業）名	役職名	任期	備考
久永 忠範	一般社団法人 鹿児島県情報サービス産業協会	副会長理事	R2. 3. 31	株式会社 フォーエバー 代表取締役
吉崎 昌幸	有限会社ビーライン	代表取締役 社長	R2. 3. 31	
小森 昌章	特定非営利活動法人 鹿児島デザイン協会	理事	R2. 3. 31	株式会社 小森昌章 建築設計事務所 代表取締役
竹下 とみお	協業組合ドゥ・アート	代表理事	R2. 3. 31	
押井 啓一	南九州税理士会	副会長	R2. 3. 31	税理士法人 押井会計代表社員
川衛 斉	株式会社スリーイン ホテルアービック鹿児島	支配人	R2. 3. 31	
萬 英治	鹿児島医療経営研究会（KM M)	顧問	R2. 3. 31	一般社団法人鹿児島 県医療法人協会 協会立看護専門学校 /理事長 兼 社会医療法人緑泉会 /理事長室部長
馬場 俊孝	医療法人 上原クリニック	人事部長	R2. 3. 31	
前平 秀康	株式会社 土佐屋	取締役 総務部長	R2. 3. 31	卒業生
小橋 美穂子			R3. 3. 31	保護者

3. 委員会次第（概 要）

(1) 開会

(2) 学校長挨拶

就任の挨拶と本委員会の目的について説明を行った。

(3) 顧問挨拶

就任の挨拶を行った。

(3) 委員紹介

各委員の紹介を行った。

川衛 斉委員，馬場 俊孝委員，小橋 美穂子委員はご都合により欠席された。

(4) 委員長選任

鹿児島医療経営研究会 萬 英治委員を委員長に選出し，議長とした。

(5) 令和元年度 学校自己点検評価報告

校長より，評価の変更の項目および，今後の取り組みについて報告を行った。

(6) 討議・意見交換

各評価委員から，報告に対するご意見・ご指摘をいただいた。

（詳細は後記のとおり）

(7) 閉会

4. 討議・意見交換について

各評価委員から，様々な視点からご意見・ご指摘をいただいた。

（久永委員）

○シラバスを見て，学生自身が学習内容を判断したり選択したりできるのか。

（永田）

学生募集の際にシラバスを示し学科の説明を行っているが，実際授業を受ける際の科目の選択は行っていない。

（校長）

入学後，カリキュラムを説明する際におおまかなシラバスを示し，学生の学習の動機付けとなるよう活用していきたい。

（久永委員）

○学内禁煙ということだが，喫煙はどこでしているのか。

（校長）

校内は禁煙のため，隣接する建物の喫煙所で行うよう指導している。

（久永委員）

学外でのマナーについては，学校のイメージにつながるため，指導はしっかり行うべきである。

（久永委員）

○同窓会についてなかなか評価が上がらないが，卒業名簿はあるのか。

(校長)

卒業名簿はあるが、組織として構築されていない。

(谷川)

卒業生をデータとして管理はできている。卒業生である職員も在籍しているので意見を聞きながら個人情報保護法に基づき、同窓会を立ち上げることを目標にしていきたい。

(久永委員)

評価項目であるから行うべきである。現住所などは把握できているのか。

(谷川)

現住所の把握が難しいためホームページ上で卒業生である確認が出来るようにし、同窓会を作成するための情報を送ってもらい、それを一覧として管理できるようホームページの業者と話を進めているところである。

(久永委員)

卒業生の情報がわかっている範囲で同窓会をスタートし、そこから広げていくのはどうか。

(谷川)

今後考えて進めていきたい。

(吉崎委員)

○学生支援制度について経済的な面の支援について聞きたい。

(谷川)

日本学生支援機構の奨学金に加えて新制度である修学支援の認定校でもあるので、今回の新型コロナウイルスによる家計急変などにも対応できている。学校においては、入学時だけでなく進級時にも学費免除の支援があり、対象学生に対しての支援を行っている。離島からの学生については、離島奨学金として毎月支給の支援を行っている。

(竹下委員)

○図書室・図書コーナーについて3年間評価を上げられない要因は何か。

(校長)

専門書については必要なものはクラスにあるが、一般教養も含めた蔵書を揃える予算と場所の確保が難しい。目途が立たないというのが現状である。

図書も常にアップデートされるが、本校はパソコンを一人一台使用でき情報収集の方法として書籍との兼ね合いが難しいところ。

(小森委員)

○学生支援の「卒業生への講習・研修を行っているか」という項目の評価が2から3にアップしているが、具体的にどのようなことを行ったのか。

(谷川)

卒業生の就職先からマナー講習の依頼があり、対応したため評価を上げた。今後も企業様から依頼があったものには、進んで対応していきたいと考えている。

(小森委員)

○社会的活動の「地域貢献・地域共生を意識した交流活動等を実施しているか」という項目について、新しい項目であるのに対して評価が4であるが具体的にどのようなことを行ったのか。

(校長)

もともと4つあったものを1つにまとめた項目である。

留学生も含めて地域文化を学ぶと同時に地域貢献活動を中心として、おはら祭りなどの参加を行っている。同時に国際理解も深めていく目的も持っている。

(前平委員)

○図書室について予算と場所の確保の問題であろうと考えられるが、お金をかけて無理に作ったとしても学生の利用がなければ無駄である。

作れないのなら公共の図書館を利用し読書の記録としてみなすことができれば、それを評価に反映できないだろうか。

(校長)

教育施設として充実した環境が整っているかどうかという評価項目であるため、読みかえは難しいと考える。

(前平委員)

○SNSなどで当たり前になっている時代に、同窓会に何を求めるのか。(ご自身も)卒業生であるため、集まらないのでは?と考える。これから学生となる子供たちの考え方も変化してきているのだが。

(顧問)

同窓会は、情報を提供したり時には力を借りたりできる場になると考える。

相互に高め合おうという意識が生まれる場であってほしい。

(校長)

同窓会があったら、卒業校の応援団として支援していただける立場であってほしい。

(萬委員長)

学生に帰属意識を持たせるものとして大切である。

(押井委員)

○図書館についての評価は2から3にあげていければいいと思うが、現状ではよほどの検討が必要だと考える。そこで、学内ではなく外部に施設を借りるのはどうだろうか。

同窓会については、これまでの卒業生ではなくこれからの卒業生で会を組織付けて行ったらどうだろうか。連絡を密にして情報交換ができると、その後の支援に役に立つのではないか。

(校長)

検討していく。

(押井委員)

○PTAとしての支援は何もないのか。

(谷川)

入学前に保護者を集め学校の体制などを説明し理解していただいているが、その後はこちらからの一方的な発信となっているのが現状である。

(押井委員)

連携を深めることで企業の情報をもらうことができ、就職に役立つのではないかと。

(谷川)

検討していく。

(萬委員長)

○新型コロナウイルス感染防止のための在宅学習中、リモート授業はどのように行ったのか。

(谷川)

学生には卒業まで一人1台ノートパソコンを貸与している。在宅学習期間は情報系の学科から先にリモート授業を行い、他の学科も同様に行った。

(南迫)

スマートフォン・パソコンのどちらからでもアクセス可能であるため、学生の使用状況に対応できた。

(萬委員長)

授業のコンテンツは何を使用したのか。

(南迫)

教員で教材を作成し、Teams や zoom を使用して授業を行った。

(萬委員長)

問題となる中傷などの SNS を使用する際の指導はどのように行っているか。

(永田)

情報リテラシーの指導として新入生オリエンテーションで取り扱っているが、折りに触れて話題にし意識付けている。また、就職実務の授業の中でも取り扱っており、実習先での出来事についてや相手の気持ちを考えない書き込みなどについて考えさせる活動を行っている。

引き続き、SNS に書き込むことに対して責任を持つことを意識させていきたい。

討議・意見交換終了。

ご指摘・ご提言いただいたことを真摯に受け止め、より良い環境を作るべく検討することを伝え、閉会した。

—以 上—

記録：坂口